

2024年1月14日(日)に旧谷中村と鉱毒被害地を訪ねる。

前年11月、「写真集作成へ/491・関東・実践/足尾撮影行動」が提起され、足尾町通洞駅前民家の2階を拠点に撮影がスタートする。続いて12月には「足尾・谷中撮影とルポルタージュ行動」が始まる。「足尾谷中通信2号」には1973年6月15日に491仮小屋を開設したと書かれ

ています。この仮小屋とは491が活動拠点とした場所で、海老瀬の針ヶ谷家の農機具小屋の一部です。針ヶ谷さんは、昨年からAAJPSが「足尾閉山50年」展でお世話になっている足尾鉱毒事件田中正造記念館の針ヶ谷館長のお宅でした。



インフォメーション

名古屋市美術館

抵抗と模索—学生写真運動の展開

常設展示室1,2〈コレクション〉

期間:2023年12月19日~2024年3月10日

開館時間:AM9:30-PM5:00

休館日:月曜日(祝休日翌平日)

2024年2月24日(土)

*コレクション解析学

演題:「集団撮影行動とは何か—

学生写真運動資料解題」

講師:竹葉丈

東京ステーションギャラリー

生誕120年 安井仲治 僕の大切な写真

期間:2024年2月23日~2024年4月14日

開館時間:AM10:00-PM6:00(金曜日は20:00まで)

休館日:月曜日(祝休日翌平日 4/8は開館)

原爆の図丸木美術館

阿波根昌鴻 写真と抵抗 そして島の人々

期間:2024年2月23日~2024年5月6日

開館時間:AM9:00-PM5:00

休館日:月曜日(祝休日翌平日 4/23~5/6は無休)

トークイベント

4月20日 PM2:00

「人間の住んでいる島」

比嘉豊光 玉城睦子 小原正史

'65~'79までの全日・491のアーカイブ作りは着々と進んでいます。お手持のネガや資料の情報をお知らせください。お問い合わせ等:277-0053 柏市酒井根2-20-11 東 関 hig811@gmail.com



広島・基町チーム ネガスキャン始めました!

広島・基町チームは今年度の事業計画である4,555本のネガスキャンを開始しました。福崎進、福崎登志子、阿部静子、鈴木八千代、今村ひろみ、東闊の6名で13箱のネガを分担し、自宅でスキャンしています。スキャンしたデータはアドビブリッジ等で一本ずつのフォルダに収納、ファイル名をFilm目録のタイトルあわせTIFFに変換し、最終的に保存用のハードディスクを収納します。ベタより得たメタデータを記載したFilm目録にスキャンして分かった事柄を追加記載し、目録を完成させることで目録とスキャンデータの紐付けが可能となります。



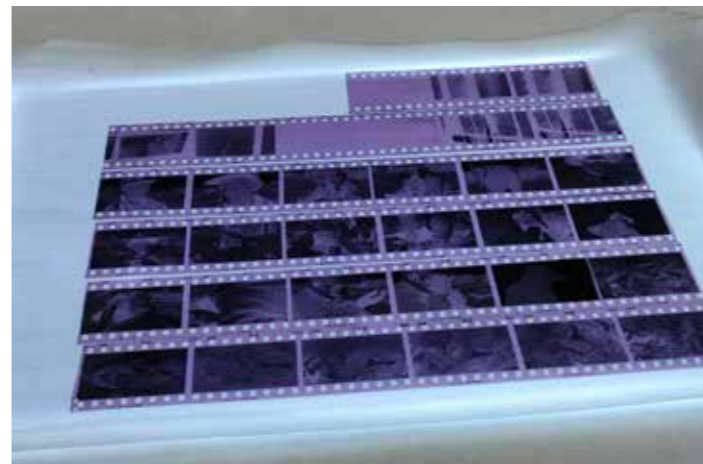
スキャナーとライトプレート



画像を見ながら目録に書き込んでいく

ALJP	広島基町011	499	mat-01-098
ALJP	広島基町011	2301	mat-01-099
ALJP	広島基町011	2304	mat-01-100
ALJP	広島基町011	2305	mat-01-101
ALJP	広島基町011	2306	mat-01-102
ALJP	広島基町011	2307	mat-01-103
ALJP	広島基町011	2308	mat-01-104
ALJP	広島基町011	23	mat-01-105
ALJP	広島基町011	24-22	mat-01-106
ALJP	広島基町011	24-25	mat-01-107
ALJP	広島基町011	25-27	mat-01-108
ALJP	広島基町011	25-14	mat-01-109
ALJP	広島基町011	26-34	mat-01-110
ALJP	広島基町011	26-49	mat-01-111

一本ずつの短冊を写込み、スリーブに入れる



ほとんどのネガは順番にはなっていない、天地逆や裏返しになっていることもある。ライトプレートの上でコマ番号を確かめながら順番にする。



ガラスのスリーブではビネガーシンドロームを止めることは出来ない。しかし一度ビネガーシンドロームを起こしたネガはカールが残ります。

スキャンの仕様

○使用機材

- ケンコー KFS-14DF+SDHC カード
- ハードディスク2台 (SDHCカードのバックアップ用とデータのフィルム毎の整理用)

○処理ソフト

- NikonTrasfer2
- SDカードのデータをハードディスクに転送

Adobe Bridge 又は NX Studio

ファイル名のリネームと TIFF へのファール変換

○データの仕様

- サイズ 5728 ピクセル×3824 ピクセル
- スキャン時 JPEG 保存時 TEFF
- グレースケール 8ビット ガンマ 2.2
- *スキャンは必ず撮影順(コマ番号順)に行う。

AAJPS ホームページ <https://aajps.or.jp>



足尾・谷中チーム

今春群馬県館林市の足尾鉍毒事件田中正造記念館で開催予定の「旧谷中村写真展」（仮称・4月14日～7月）の準備の一環として基町チームにも声かけして総勢9人で渡良瀬遊水地内の旧谷中村訪れました。

当日は記念館の針ヶ谷照夫館長と島野薫事務局長のご案内で、ご用意頂いた「谷中村遺跡地図」と「谷中村残留民位置図」、「谷中村の歴史」を見ながら歩きました。

→谷中村史跡保全ゾーン

こんもり小高い屋敷跡や水塚が辛うじて残る。その先に役場跡、そして田中正造の最後の戦い拠点となった雷電神社跡。延命院跡と共同墓地跡が向き合うようにある。

1972年8月21日早朝、共同墓地の移転工事が始まるうとした時、旧谷中村残留民の子孫達が集まった。その

中から水野勝作さんがブルドーザーの前に身を挺した。「工事を止めないのなら座りこむぞ!」と、萱刈鎌を腰に刺して叫んだ。その剣幕に作業員は尻込みして、一旦工事を中止する。その結果、水野家の墓一帯は残り、谷中湖（渡瀬遊水池）は当初計画の丸型からハート型に変更された。ハートの窪みは現在谷中村史跡保全ゾーン。

→増田清三郎さんが祀る祠

増田清三郎さんは田中正造に多額のお金を用立てて支えた。そのお金は再三の返還の要請にもかかわらず、戻ることにはなかった。が、尊敬していた田中正造の死後、屋敷前に『田中正造翁之霊堂』を作り、今もお祀りしている。(50年前に撮影していた写真の祠は作り直されていた)



前日の雪の残るなか針ヶ谷館長、島野事務局長の説明で史跡をめぐる。



住居跡。小高いところに住居は作られていた。



延命院跡・共同墓地跡。墓石はかなり失われている。



住居跡には巨木化した桑の木が残る。右奥は村役場跡。



雷電神社跡。右手に神社はあった。



洪水のたびに水を冠る湿地帯。交通手段には船を使い、水塚が作られた。

2024年1月14日（日）に旧谷中村と鉍毒被害地を訪ねる。

→北川辺の西小学校敷地内にある田中正造分骨場所

北川辺町は埼玉県内で唯一町全域が利根川左岸に接している。北川辺町が利島村と川辺村だった明治35年、渡良瀬川は今より北側の低地を流れていたため、たび重なる氾濫により、鉍毒被害地となっていた。国や県の対策が堤防を築いて村を守るのではなく、遊水地にして廃村にしてしまう計画であることを知った田中正造は、村に滞在して人びとを激励して回った。住民運動が次第に激しくなり同年10月の合同村民大会には1,000人以上が集まり、次の決議が採択された。

- 一、県庁にして堤防を築かずば、我等村民の手に依て築かん。
- 二、従って国家に対し、断然納税、兵役の二大義務を負わず。

結果、国と県に計画を断念させ、村の遊水池化・廃村の危機から救った。

田中正造の遺骨は五か所に分骨されていて、北川辺西小学校には墓とともに『田中正造の部屋』が今なお存在しており、子供達が語り部になっている。校庭の一面には、法学博士高田早苗（大隈重信と共に東京専門学校、今の早稲田大学を設立）が建てた『田中正造翁頌徳碑』と『田中正造翁之墓』（かつて「田翁之霊護村」と書かれたプレートがあった）があり、町民に守り継がれていることが分かる。

※ 491 と全日の足尾・谷中撮影行動とは

足尾銅山が1973年2月閉山するとの発表があった魔



増田清三郎さんが祀った「田中正造翁之霊堂」内観



分骨された田中正造の墓



現在の「田中正造翁之霊堂」外観



田中正造翁頌徳碑。後の小学校には、ガラス窓に田中正造の部屋と書かれた教室がある。



1973年撮影の「田中正造翁之霊堂」



田中正造の墓 1973年撮影

